

蘭 繁之（らん・しげゆき）

1、プロフィール

詩人、俳人、童謡作家、作詞家として幅広い詩作を繰り広げた一方で「緑の笛豆本」を通して、版画家、装丁家としても全国的な評価を得て、本県の芸術文化に貢献した。

<生没>

1920(大正9)年5月20日 ~ 2008(平成20)年3月11日

<代表作>

詩集「旅の弥撒」

詩集「夢二幻想」

詩集「車椅子」

抒情詩「雪の音」 他

<青森との関わり>

弘前市和徳町に生まれ、文学活動(詩作)と美術活動(木版画と装丁)を融合させ生涯にわたり、生地弘前において活動続けた。

2、作家解説

蘭繁之(本名・藤田重幸)は1920(大正9)年、弘前市和徳町に生まれる。

蘭は詩人、俳人、童謡作家、作詞家と、幅広い詩世界を持った詩人であった。

また、木版画家、装丁家としても知られており、特に1965(昭和40)年8月より2004(平成16)年4月まで続けられた「緑の笛豆本の会」の主宰者として自ら装丁・造本や木版画による挿画を手掛け、その丁寧な作りは全国的に高い評価を受けている。そして自らも、詩集『夢二幻想』『和紙抒情』、童謡集『慈悲心鳥』、演歌集『赤い椿よなぜに散る』、『蘭繁之句集』など多くの著作を出版している。

蘭は竹久夢二に深く傾倒し、作品の蒐集や研究者としても知られているが、詩作においても夢二の抒情性に影響を受け、抒情詩に優れた作品を残した。特に

童謡作家としてその才能が発揮され『秋草のうた』『風が光って』『春が来たんだ』は、童謡祭参加作品として歌われ、『新しい童謡集』に収録されている。また、抒情詩「雪の音」は西脇久夫によって作曲され、NHK「みんなのうた」でボニージャックスによって歌われ、蘭の名は全国的に知られるようになったが、一方では、社会批判を込めた詩人として、戦時下においては治安維持法に触れ検挙された経験を持ち、その抒情性と社会性という硬軟合わせ持つ二面性は、蘭の作品の特徴にもなっている。

また、自らの文学活動と版画、装丁の三位一体により文学と美術を芸術的に融合させたのみならず、緑の笛豆本の製本出版を通して青森県の芸術文化活動へ貢献した。そうした功績により、2000年(平成12年)青森県芸術文化振興功労章を受賞。生前は、日本詩人クラブ会員、日本ペンクラブ会員、弘前ペンクラブ顧問を務め、2008(平成20)年3月11日に弘前市で死去。享年87歳。